

平成30年度 地方創生交付金事業評価結果

「地域創生戦略のK P I 達成に有効であるか」を地域創生会議委員10名のうち座長を除く9名による事前評価を基に、令和元年度第2回地域創生会議（令和元年10月11日）での協議を経て評価確定

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
1	1- (1) -① ふるさと農業創生支援事業 (農業推進課)	① 4名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地元調整や学習会等を通じて、農家民宿を活用した教育体験旅行に積極的に取り組むとともに、農家民宿間の連携など、地域ぐるみで都市住民を受け入れる体制も整ってきている。 ・開業数が目標値に達成したことにより、今後は府や森の京都DMOとの連携などにより、農家民宿の稼働率など、事業継続を注視する必要がある。 ・セミナーやツアー等だけでなく、実際やりたい人がしやすくなる窓口の整備をして、その体制をPRしては？オーガニック農家のハードルも低くなるとよいと思う。 ・農家民宿・農家レストラン等の起業時クラウドファンディング利用者のコンセプトで評価できるものについて、初期費用の補助や支援額が80～90%超えた場合等、市が残りを支援するなどの制度を作る。
		② 5名		
③ 0名				
④ 0名				
⑤ 0名				
	10/11会議 当日意見	<ul style="list-style-type: none"> ・総じてアウトプットよりもアウトカムを意識した事業内容にしていくべき。事業内容を見ると、実施後を意識できていない。把握できていない。例えばDMOとの連携と書いたが、この地域は森の京都ということで農水省の農泊推進地域の指定を受けているはず。森の京都DMOも教育旅行の誘致をやっているし、京都府の観光事業推進課で海外の教育旅行のマッチングもやっている。そういったものを上手く活用して、せっかく支援した農家民宿が本当に機能することを次の段階では意識していかなければならない。入口、第1期の取り組みとしては、これでいいと思う。 ・農家民宿は京都府下の南丹市以外の所でもあるので、切磋琢磨しながらやって欲しいと思う。TVで取り上げられる等、南丹市の農家民宿の全体の知名度を上げて今後に繋げることが大事。「山の中で何をやるのだろう」と、すぐにイメージできないのが弱みで、実際に農業体験ができたり、新鮮な野菜が食べられたり色々良い面があると思うが自然と伝わらない。宣伝と言うか、農家民宿や農家カフェ自体の認知度を高めていけるのが理想。 		

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
2	1- (1) -① 創業支援事業 (商工課)	① 7名 ② 1名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・創業支援は、地域経済の活性化や雇用の創出を図る上で、有意義な取組であり、創業後、早期に軌道にのることができるよう事業者のニーズに応じた支援機関のフォローアップが必要とされる。 ・新南丹地域振興計画においても、女性や高齢者の「起業」のニーズを踏まえ、商工関係団体や地元金融機関等との協働による相談や研修会等の開催を通じた「起業」の支援について掲げているところであり、十分留意いただきたい。 ・金融機関として起業家の多くと接してきているが、起業前の支援に加え起業後のフォローが重要で、夢・悩み・課題等の解決のために地元金融機関との連携を密にしてゆく必要がある。 ・参加してためになった。 ・番号3、4の事業も含めて創業・起業の関連事業となっていますが、これらの事業がうまく連携できているのか確認が必要です。セミナー等参加者がどのように創業・起業に結びついているのかなどを確認できればと思います。
		10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・創業支援のために色々なセミナーをやる事は良い取り組みだと思う。金融機関として数多く創業家の支援をしてきてきましたが、やはり少し目を離すと廃業につながるケースが多々ある。起業後こそ経営者に寄り添って、夢・悩み・課題を解決できるよう支援してゆくことが大切であり金融機関と地元商工会等とが連携してアフターフォローしていくべきと思っている。 ・次期に向けてまだまだ創業志望者はいる。呼びかけや寄り添った支援をやっている。2期戦略にも関わりますが、金融機関ができる支援もあれば、自分自身でやるべきこと、市がやるしかないこともある。 ・京都の補助金制度はかなりの数があるので、それをアナウンスして有効活用していただくべき。 ・外部から移住してきた人が、いきなり創業というのは難しい。近隣との関係等もあり、地域に馴染んでからでないといけないと思う。理屈としては、移住して地域に良い影響を与え、その地域の特性を新たな視点で掘り起こして起業に繋げてくれたら。 ・創業は定住と連携すべき。京都丹波移住・定住促進協議会を2市1町でやっていて、支援メニューの中に経営や金融があるので、そこから来てもらって話ができれば。結果として次々起業があればいいのだが、なかなか難しい。地域を知っていただくことも含めて、起業の支援、起業後の支援も必要だと思っている。 ・移住して起業したいという人もいるだろう。中身のある支援ができれば良いと思う。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
3	1- (1) -① 実践型人材育成事業 (地域振興課)	① 0名		<ul style="list-style-type: none"> ・創業は、地域経済の活性化・雇用の創出に大きな役割を果たしており、「新たなしごとの創出」にチャレンジしようとする方を積極的に支援することは、有意義な取組である。 ・女性ならではの視点による新ビジネスの創出は、地域経済の活性化をもたらすものである。 ・起業に向けた伴走支援を強化し、着実な起業に結びつけられる事業展開の支援が課題である。 ・設定項目に向けた作業としては弱い。サテライトオフィス自体はよいと思う。
	② 7名	○		
		③ 1名		<p>10/11会議 当日意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業はK P Iにある女性の起業だけでいいのか。どういう人にどう起業させるのか、考えなければならない。どこまでやれば成功なのか、数字にすると難しい。先程の事業との繋がりで、起業したい人に適切に支援していくことが大事。 ・南丹市では待機児童は少ないが、子どもを預ってもらって働きたい女性の労働時間を確保する。起業は勢いで出来るが、継続が難しい。女性は色々な立場になっていくと思うので、女性特有のシーン別の支援が必要。子育て広場に来ている母親にも就労意欲がある人には働き口のリスト等の情報を提供できれば。配偶者の都合で転勤してきた女性は情報不足な方が多い。 ・女性の活躍の場という1つの支援。活躍の場=起業というのはハードルが高いようにも思えるが、1つの案ではある。「女性の起業」というのは何を狙ってKPIにしているのか、次期戦略では注意して考えたい。 ・今度京都テルサで女性の起業支援のセミナー学習会があるが、起業は難しい。美山でも誰が何をやっているか、住民が把握できていない。 ・起業家サロンを昔実施した。当初は男性中心だったが、女性起業家が混ざってきたのを受け、途中から女性の起業家サロンを立ち上げたら、それが人気だった。そもそも起業家というのは孤独で、同じ立場の仲間を求めている。特にこの地域に移住・創業する場合は非常に孤独。過去起業して成功した女性を講師としてサロンができないか。参加した起業家同士が仲良くなる。 ・そもそも何故女性だけなのかという疑問がある。本当に成功する人は自力でやれる。支援が必要な方は失敗する可能性が高いと思う。 ・確かにKPIで女性だけ取り上げていることには違和感がある。むしろいらないだろうというご意見にも頷ける。一般論としてはそう思うが、何か必要とする事情があれば別である。例えば、地域の誤解や声（女性が何をしている、出過ぎている等）がもしあれば、そんな事はない、起業する人がいて良いことであると広げていけたらと思う。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
4	1- (1) -③ むら・ひと・しごと創生事業 (地域振興課) (商工課) (農山村振興課)	① 1名 ② 6名 ③ 1名 ④ 1名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・定住を進めていくためには、地域を活性化し、しごとの創出に結びつく取組みが必要である。実施された取組は、地域資源を生かしたもので、今後もそれぞれの地域の状況に応じて継続的な支援を進めていく必要がある。 ・事業の実施に当たっては、長期的視点だけではなく、短期的なロードマップなども作成し、可能な限り短期間に、しごとの創出に結びつく事業展開ができるよう工夫して進めることが課題である。 ・1つの事業者に対する額が大きいので、地域内で摩擦が生まれているような声を聞く。気をつけて。 ・美山地域でいろいろな事業をされているが、住民のひとりとして実施されている事がわからない。 ・番号1同様クラウドファンディング利用時の制度
		10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・事業の中身として色々詰め込み過ぎている。そのため非常に評価が難しい。これを一本化するなら、事業2と3も一本でいいと思う。正直、事業の主たる目的はどこにあるのか分からなかった。それで評価が分かれたと思う。 ・評価について本来は細かいプロジェクトごとに考えるべき。サテライトオフィスと獣肉活用は明らかに事業が違う。交付金を受けた事業単位がこの形だから、同様にトータルで評価して欲しいという事情だとは思いますが。その他の事業についても、次年度以降もそういった考えでつくることが望ましい。個人の意見としては、獣肉活用も大事で必要だとは思っている。ただ、必要ということと、現にやっていることが上手く機能しているかは別の問題。それぞれを見ていただかないといけない。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
5	1- (2) -③ 南丹市販路開拓支援事業 (商工課)	① 6名 ② 2名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・労働力の確保を始め経営環境が厳しさを増す中で、事業者の経営の安定、持続的な成長・発展のためには、新たな販路を開拓していくことが不可欠である。 ・今後は支援件数の増加を図ることにより、支援機関と連携しながら支援に関するノウハウを蓄積し、新規取引先につながっている実績のPRにつとめ、効果的、効率的な支援に努めることが重要である。 ・例えば他府県の事業者を招き南丹市の食材等を集め、大規模なフードコラボを実施してみてもどうか？
		10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・単体事業としては良い評価だが、勿体ない。先程の起業支援事業とリンクさせるべき事業。他の委員から起業後の継続が難しいという意見があった。実際、商売として成り立たないといけないので、積極的にこういう支援を入れることによって継続の可能性が高まると思う。今後は2つを上手くリンクさせていただきたい。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
6	2- (1) -① 空き家流動化対策事業 (地域振興課)	① 8名 ② 1名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者用の空家不足が課題となる中、地域ぐるみでの空家の掘り起こしや空家掃除作業の支援・空家の思い出をアルバム化する事業など、地域ニーズに応じた空家確保につながる事業を展開している。 ・今後は、府をはじめとする関係機関との連携により、地域、空家所有者の選択肢が広がるようにつとめる必要がある。 ・一方で、移住相談については、相談件数（アウトプット）よりも移住者数（アウトカム）に重点を置き、移住実現事例の横展開など、効果的な取組を重視するべきである。 ・空き家になる時、持ち主に空き家バンク登録を促す。 ・移住希望者に情報を届けるには紙媒体ではなくWEB媒体が効果が高いように思う。1冊675円のガイドブックの必要性が感じられない。 ・地縁団体のはたらきかけはむずかしい（人間関係的に）。市からはたらきかけられたら。 ・番号6、7、8の3事業について情報共有や連携体制について教えてください。
		10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・移住に関わる中で、代々守ってきた家を貸すということについて、地域が高い心理的ハードルを持っていると感じた。貸すことが人助けだという認識がない。公共的な立場で必要性を訴える人がいれば動きやすいと思う。 ・支援者が一緒に行って間に入るといいのかもしれない。京都府と地元をよく知る人で。確かに直接のやり取りだけでは、転入者に警戒心を持たれるのかも知れない。とはいえ、市役所が行って、自分が住むわけでもないのに地域と話しても説得力がない。行くべき人が行って、きちんと説得することが必要。1冊675円のガイドブックの必要性については、事務局に聞きたい。WEB媒体でも良いと思う。 ・無理矢理空き家を取り上げるようなことをする必要はないが、委員のご発言にもあるように、納得した上で地域のために使えたら良いのだが。一方で、適切な管理をしないで老朽化したり、傷んでいくものもあるだろうから、難しいところ。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
7	2- (1) -③ 定住促進サポートセンター運営事業 (地域振興課)	① 9名 ② 0名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	・定住サポートセンターを核に、移住希望者が持つ課題に、一元的に対応する体制が出来ており、また、府の京都移住コンシェルジュや地域団体等と連携して、きめ細かな対応をされている。 ・都会に近い京都丹波地域の魅力を最大限に発揮するため、子育て・福祉施策等との連携や近隣市町との連携をより進めていく必要がある。 ・なお、指標については相談件数（アウトプット）よりも移住者数（アウトカム）に重点を置き、移住実現事例の横展開など、効果的な取組を重視するべきである。 ・空き家だけでなく土地・農地用の職員を入れては。 ・人口が増加している（滋賀/大津）のアンケート結果の1位から10位です。参考にしてください。 ①通勤通学の利便性 ②子育て教育環境 ③生活環境 ④交通の利便性 ⑤町・地域のイメージ ⑥地価・家賃相場 ⑦親族の居住地等への近さ ⑧自然環境 ⑨友人などの居住地等への近さ ⑩行政の取組内容 ・移住相談件数288件に対し空き家活用件数28件は少ないのでは？行政と地域が連携し空き家バンク登録件数を増加させてゆくことが重要。また新築購入動向・中古購入動向が賃貸希望なのか傾向を把握してゆくことも必要。個人的には古民家の魅力は大きいと思う。
		10/11会議 当日意見		・薄暗いので明るくして欲しい。窓口としてイメージアップしてはどうか。実際に窓口を担う方の意見も聞きながら、移住希望者の最初の接点を大事にして欲しい。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
8	2- (1) -③ シティプロモーション推進事業 (秘書広報課)	① 6名 ② 0名 ③ 3名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・U・Iターン者や地域団体など市民協働による動画やテーマソング作成により、南丹市の魅力を都市住民に分かりやすく伝える努力が認められる。 ・対外的な情報発信とともに、在住者の地域への愛着を醸成し、定住促進の効果も期待できる。 ・なお、指標については移住相談のみではなく、住民の意識調査や観光入込客数などの工夫が要すると考える。 ・相談件数の増加と本事業の相関性が ・ラジオでよく聞くとお客さんに言われる。移住につながるかどうかはこれから。時間をかけて。
		10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・U・Iターンの確保、移住促進、住民の方にわが町の魅力を再認識してもらおう等ターゲットや効果は色々あると思うが、では何をやっているのか、どれを狙っているのか方向性が見えない。ターゲットを明確にしたら、やる事ももう少し変わってくるのでは。 ・知名度が一定出てきたという前提で、何を狙ってやっているのかということ。 ・4月からαステーションで、耳に付くぐらい「Uターン Iターン なんとーん」と聴いてすっかり覚えてしまったが、αステーションに流しているということは、南丹市近郊の方がターゲットなのだと思う。ただ、ラジオやテーマソングだけじゃなく、他にも色々アイデアはあると思うので、組み合わせを考えた方が目的が明確になるのではないかと思う。 ・私は電車通勤だが、京都駅の広告占有率は高いと思う。同じく戦略策定で関っている他のまちよりは明らかに。それに見合った効果があるのか、次に何を伝えていくのか、課題はあるが。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
9	2- (2) -①	① 4名	○	<p>・観光は極めて裾野の広い産業であり、大きな経済波及効果を持っている。本格的な人口減少時代を迎える中で、京都府全体、とりわけ人口減少に伴う経済の停滞・地域の衰退が懸念される府域の発展に観光が果たす大きな力に期待が寄せられている。</p> <p>・京都市への観光客を京都丹波地域に周遊促進が図れるよう観光施策の推進を図っていくことが重要であり、近隣市町、森の京都DMO、府などと携して取り組んでいただきたい。なお、イベントによる来訪者は一過性に過ぎず、天候にも左右されるため、イベント開催に当たってはリピーターの確保につながるような内容に工夫するとともに、観光消費額を指標とするなど、観光が地域活性化の入り口であることに留意して取り組んでいただきたい。</p> <p>・地元住民の為の事業であるならばK P Iの見直しが必要だと思う。</p> <p>・抽選会などは同じ人がいくつも応募するようなことを聞いたので不公平感がないように。景品より出店者へのサポートを充実させる方がよいのでは。</p> <p>・外国人宿泊客5,409名となっている。現状、観光型から体験型に人気移行していることを頭に入れておく必要がある。また、日本人と比較し外国人の電子マネー利用率は極めて高い。突然、外国人が食べにくる飲食店になったという事も耳にするが観光客はSNSで電子マネーが使えるかどうか等を情報交換している。中国人であれば「アリペイ」が使える店・宿泊施設は大歓迎なのでそのようなこともアピール材料となる。「麒麟がくる」の明智光秀ゆかりの地も行政が中心となりアピールしてゆく必要があるのでは？</p>
	観光イベント振興事業	② 3名		
	(商工課)	③ 2名		
	(観光交流室)	④ 0名		
		⑤ 0名		

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
9	(続き)	10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・「CREATOR DAYS NANTAN」参加者にフランスの旅行会社に勤務されている方がおられ、南丹市の「ものづくりを」されている事業先を紹介してほしい旨の依頼があった。後日フランスから来られた社長と社員さんを、八木と日吉の「ものづくりの工房」にご案内した。社長が何を考えているかという、今までは京都市内の京町屋を宿泊拠点にして伏見稲荷や金閣寺等の観光をしていたらしいが、今計画されているのは亀岡の古民家を借りて保津川下りで嵐山に出て戻り、2日目に南丹市で体験型の観光をさせ、その後日本海の大橋立観光に連れて行こうと考えておられる。ただの観光は飽きられてきているが、南丹市なら体験型の観光が提供できるので実現したら素晴らしいことだと思っている。 ・可能性は大いに感じるどころ。「こんな事もできそう、あんなことも出来そう」と思い浮かべて実績を見ると低い評価をしたくなるが、やった事そのものを見れば、頑張ったと高く評価もできる。仕事で市内を移動する途中で沢山の外国人観光客見ることが、正直やることなく、真夏にコンビニの前でへたりこんでいる姿も見かける。日本の古来の夏イメージで、美山等に来ていただいた方が有意義だろうと思うところもある。京都市内に来た人に、南丹で体験をしてもらう余地というのは色々あると思う。 ・目的を見ると、地元の方がお盆で帰省した時に、故郷・南丹市が良いなと思ってもらうための事業という意味合いもあるのでは。その観点であれば定住関係の事業という捉え方になる。イベントチラシも1ヶ月前にしかまかせないが、一般的に旅行社がツアーを組もうと思ったら3ヶ月前には日程を決めてチラシをまくもの。イベントの開催目的は地域振興か観光か、どちらに焦点をあてるのか、それによってやり方と評価が違う。目的がしっかりと明確にされていない。 ・目的を複数設定すると、おかしくなる。目的を明確にして、それに合った内容にしていく。KPIを観光宿泊数にしているのも疑問。1万人規模のイベントを1回やるよりも、100人規模のイベントを100回やる方が効果は大きい。リピーター創出に繋がっていく。イベントはあくまでも一過性の取り組み。「たくさん来てよかった」という時代は終わっており、KPIも消費額で見るべき。目的を明確に。ただ、10万人集まる花火イベントは貴重な機会。その時に何をやるのか、工夫が大事だと思う。 ・評価のルールとして、元々国に示した狙いどおりになったのかどうかで判定する。花火・もみじ祭り等は元々あったものを改めて重視して盛り上げていくものなのだという話になっていたのは事実。それが、これからあるべき地域創生の観光という視点からすると、少し違うのではないかということになれば、評価結果として有効とまでは言えない。 ・花火大会は人が溢れて困っていた時期があり、警察からもPRを止められていた。しかし、PRを止めた途端に人が減り、戻らない。広報を減らして1度減ってしまうと戻すのは大変であると痛感した。その間に亀岡市の花火大会の日程が変更され、南丹市の日程に近くなったことにより、さらに減っていった。その経過から言うと、やはりPRをしていかないといけない現実がある。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
10	2- (2) -① 各種イベント等開催事業 (市民協働室)	① 1名 ② 7名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主導のイベントの開催は地域住民と観光客の交流により、より地域の魅力を発信できる取組であると考え。 ・ただし、観光振興のためのイベントの意義については上記「観光イベント振興事業」と同様であることと、参加者層を考えると「外国人観光客の宿泊者数」が指標として相応しいかは疑問がある。 ・抽選会などは同じ人がいくつも応募するようなことを聞いたので不公平感がないように。景品より出店者へのサポートを充実させる方がよいのでは。
11	2- (2) -① 観光宣伝事業 (観光交流室)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅における観光宣伝での誘客、フォトコンテストを通じた地域の魅力のPR等、観光客の誘客や地域ブランド力の向上につながるものである。 ・首都圏等の国内遠隔地や海外に向けてはより訴求力の高い取組が必要であり、全国的な知名度を誇る美山への支援は重要であり、そこから市内全域への周遊を促進する取組や、府や森の京都DMOと連携した取組を強化していただきたい。 ・美山DMOと他の観光協会や森の京都DMOとの協力体制をもっとつくってほしい。バラバラ感。
10 + 11		10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・南丹市に来るようになって10年以上経つが、最近車窓から観光客をあちこちに見かけるようになった。前回の会議後、るり溪経由で大阪へ抜けたが、グランピング施設等を見たら驚くほど人がいて凄いなと思った。全般的に言うと、観光宣伝で知名度が上がっている現状があると思う。 ・各種イベントは地域の人を楽しむ内容になっている。 ・各種イベントのバラバラ感は実感していて、勿体ないと感じる。海外プロモーション先が森の京都と違うので、そこを合わせていければさらに効果的になると思う。 ・関西圏なら「美山」の知名度で通用するが、海外からのターゲットはもっと広域。「京都」「関西」という単位になる。一定連携をとって同じ方向を向いた宣伝をやっていくのが大事と思う。南丹市は美山にぶら下がる観光振興。美山に行くまでに日吉があるが、京都市内の人でも日吉と美山の境目は分からないと思う。せっかく美山に集客力があるのだから、それを使わない手はない。「京都」も世界ブランドなので、ぶら下がり戦法を使うべき。南丹市は、「美山」という知名度の高い所があるので、ぶら下がって全体の底上げを図るべき。 ・「観光まちづくり戦略」という記載があるが、実際にあるのか。必要と感じるので、南丹市と一緒に作っていきたい。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
12	2- (2) -① 観光協会事業 (観光交流室)	① 2名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・南丹市内の各地域の特色に合わせた観光事業を行う観光協会への支援は、必要と考える。 ・南丹市の観光戦略をいかに観光協会と共有し、より一層、事業に反映していくかということや、各観光協会間の連携を図ることが必要であると考え。 ・事務局はとてがんばっておられるけど現状として八木町観光協会がしまっているときはうちに質問がくる。
		② 7名		
		③ 0名		
		④ 0名		
		⑤ 0名		
		10/11会議 当日意見		(特に議論なし)
13	2- (2) -① 山陰本線南丹市広告宣伝事業 (地域振興課)	① 6名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・京都・大阪のJRでの観光宣伝は、地域の魅力のPR等、観光客の誘客や地域ブランド力の向上につながるものである。 ・一方で、事業の目的はJR山陰本線の利用者増であり、自動車利用が多いと考えられる観光入込客数を指標とすることは不適當ではないか。 ・都市部に出したのは見る人が多くよかったと思う。
		② 3名		
		③ 0名		
		④ 0名		
		⑤ 0名		
		10/11会議 当日意見		(特に議論なし)

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
14	2- (2) -① 観光動態調査事業 (観光交流室)	① 3名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の観光戦略の策定、地域ブランド力の形成を図る上で、現状の分析は必要なものである。 ・調査結果を基に、市の観光戦略にいかに関活用していくかが重要であり、継続した調査の実施と、観光戦略への反映が必要と考える。 ・観光動態調査については、森D、美山DMOなども実施しているので調整、情報共有しながらすすめられると更に効果的だと思う。 ・データ数を集めるためなのであれば、アプリはハードルが高かったのでは（若い人が多くなる） ・調査結果を踏まえて、南丹市の観光をどのように分析し、次の事業に展開するのか教えていただきたい。
		② 4名		
③ 0名				
④ 2名				
⑤ 0名				
	10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・動態調査は絶対必要な取り組みで、色々な自治体でやっている。京都府でもDMO、市町、観光協会等色々なところでやっている。しかし、調査データの分析まで至った事例を見た事がない。京都府でも最大の課題と捉えていてデータも色々あるが、情報として市町村単位で役に立つものではない。市町村単位のデータ収集は必要なので、南丹市がやる事は否定しないが、分析して、それをどう反映するかが大事。それにはプロの分析が必要。京都府も色々画策しているが未だに上手くいっていないので、一緒に考えたい。ただ、継続調査はデータ蓄積のために必要だと思う。 ・スマホアプリを活用した謎解きゲームに300人集まった。そのアプリを使った動態調査。謎解きゲームに300人集まって良かった。300人という点をとらえたら、有効であったと言えなくはない。しかし、単に300人来たという結果だけでは評価①はない。 	
15	2- (2) -③ スポーツ拠点づくり推進事業 (市民協働室)	① 5名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地元や各関係団体等で構成する実行委員会による開催は意義があり、トライアスリートやサイクリスト等の間では全国規模の大会として定着しつつある。 ・一方で、参加者と地元の住民以外の知名度は低く、今後は「する」、「支える」以外に「見る」スポーツとしての認知度を高めるとともに、市内での宿泊など地域経済にも貢献するイベントとしてあり方を工夫する必要がある。 ・おもてなしイベント以外にもまちにお客さんが歩くようなしなかけを作って満足度を高めたい。八木商店街への集客はほぼないので、美山は町をあげたよい大会になっていると思う。（美山だったら①、八木は④）
		② 3名		
		③ 1名		
	10/11会議 当日意見		(特に議論なし)	
		④ 0名		
		⑤ 0名		

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
16	4- (1) -② 小学校跡施設活用推進事業 (総務課)	① 3名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校跡地を地域振興の拠点として利活用をしたり、また、これを運営する地域団体も設立されつつあり、有効的な取り組みと考える。 ・一方で、地域間の取組の差が大きいことにも留意しながら、今後も廃校舎を効果的に活用されることを期待したい。 ・民間の活用をもっと考えてもいいかも。何年で自立運営できるか。 ・廃校となった小学校教室からインキュベーションを起こすための活用は素晴らしいと思う。 ・番号1同様クラウドファンディング利用時の補助制度
		② 6名		
		③ 0名		
		④ 0名		
		⑤ 0名		
17	4- (1) -② 小学校跡施設管理費 (地域振興課)	① 3名	○	
		② 6名		
		③ 0名		
		④ 0名		
		⑤ 0名		
16 + 17		10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ合宿で小学校を見せてもらって、色々なパターンがあると実感している。この夏にも養父市の小学校跡地利用を見学に行き、上手く活用されているところもあれば、そうでない所もあると思ったところ。上手く活用できないところは何故なのか。 ・旧平屋小学校には福祉関係団体のあゆみ工房が入ったと記憶している。社会福祉協議会や大谷大学の活用もあり、地域の実態調査にも取り組んでいる。平屋小学校はすごく活用できているように感じている。美山町全体で地域振興部という組織があり、様々な面で地域活動は地域の者がやらないといけないという意識が美山町住民は高い。 ・廃校となった小学校の教室を借りたいという顧客はいるものの、八木の小学校は市街化調整区域のため、製造業等が入れないという制約がある。それを外せたらお客が入られる。 ・今後も原則全部地域で活かしていくことになっているが、上手く使えている所はそのままでもいいとしても、そうでない所は何か事情に応じて活用できないか。難しい所もあるのだろうと思う。養父市も調整区域のような場所にあってもバネ工場に変わっている事例もあり、どうしてそうなっているのかは気になっている。次期戦略には大きな課題になりそうである。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
18	4- (1) -④ 地域活性化支援事業 (地域振興課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	・過疎化や高齢化により活力が低下していく中で、「地域再生計画策定事業」を始めとする集落支援事業では、地域が抱える課題解決を図るために地域住民の合意形成を促し、地域の力を再生し、安心して住み続けられる地域づくりの推進を図っており、効果的と考える。 ・今後も地域の新しい価値・誇りの創出により地域の活性化に繋がる事業展開を期待したい。 ・支援員の力量による差を感じる。今は地域ごとだが協力隊のようにテーマごとにしてはどうか。
		10/11会議 当日意見		・以前地域おこし協力隊で活動していた時に、支援員から色々なことを教えてもらい、もっと連携して集落の支援ができればと思った。特に支援員の活動地域が限定されていなくて良かったと感じている。移住者からすると、旧4町の隔たりはよく分からないので、集落支援員は柔軟に動ける立場であって欲しいと思う。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
19	4- (2) -① 障害者団体活動支援事業 (社会福祉課)	① 6名 ② 1名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の減少や高齢化などにより活動基盤が弱まってきている障害者の当事者団体や支援団体に対して、適切な助成が行われており、障害者の社会参加が図られている。 ・今後、誰もが希望を持って住み続けられる地域づくりを進めるため、引き続き、継続した支援を期待する。 ・少人数の会がいくつもあるので、合同でできるところは合同にしても？
20	4- (2) -① 障害者就労支援ネットワーク運営事業 (社会福祉課)	① 6名 ② 2名 ③ 0名 ④ 1名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク会議を中心に、前年度と同程度に受発注情報の収集や提供等の活動が強化されている。 ・さらなる魅力ある商品開発や販路拡大を通じて、工賃単価のアップを進めることが必要である。 ・なお、障がい者の就労の場の確保を目的とする事業において、「すみやすいと感じている市民の割合」が指標として相応しいかどうか疑問がある。 ・障がい者の働く場の確保。1時間の工賃が低賃金である。 ・連携活動すばらしいと思う。
19 + 20		10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・障害者施設で仕事をする、工賃が160円/1時間。皆、一生懸命働いているが、南丹市内の他の作業所でも同額である。トイレに行っても5分を超えたら賃金から引かれる。障がいのある方に対して、もっとあたたかな事ができないのかと思う。賃金が1日働いても1,000円ぐらいにしかならないことについて、南丹市の最低賃金と比べてどうにかならないのかと思うところ。 ・大きな課題はあると思う。とはいえ、こうした支援事業や就労支援のネットワーク運営を実施していく事については、有効と評価する方が多い。ただし、KPIは指摘いただいているようにちゃんと考えたい。

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
21	4- (2) -① 特別支援教育推進事業 (学校教育課)	① 6名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の支援員により、発達障害をはじめ特別な支援を要する児童生徒への、個々の障害やその特性を踏まえたきめ細やかな指導・支援が行われ、特別支援教育の充実が図られた。 ・京都府教育委員会では、「特別支援教育充実事業」において特別支援教育指導員を配置し、本事業（南丹市）の支援員とも連携しながら、特別な支援を要する児童生徒に対する校内体制の整備等に努めているところであり、府事業との相乗効果も高いことから、事業を是非とも継続されるとともに、支援が必要な児童生徒の増加を踏まえ、更なる充実を期待する。 ※南丹市実績（H30）市立小中学校4校へ非常勤講師を配置 ・住みやすいと感じていない4割がどうしたらよくなると思っているのかきいていけたらよい。 ・社会に出て、どのように社会と付き合いのか個性を活かせる力を早い時から身に付ける支援が必要であると思います。
		② 3名		
③ 0名				
④ 0名				
⑤ 0名				
	10/11会議 当日意見		(特に議論なし)	
22	4- (3) -① 森の京都推進事業 (観光交流室)	① 8名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・森の京都エリアの魅力的な観光資源を組み合わせた旅行商品、メディアを活用した情報発信は効果的であり、これらの取組を訴求力の高いものにするためには森の京都DMOにおいて府や近隣市町と連携して取り組むことが有効である。 ・一方で、森の京都DMOの事業は単独で成り立つものではなく、各市町の取組がベースになるものであることに留意し、引き続きDMOの取組への協力をお願いしたい。 ・事業実施の先にある目的や効果がK P Iになるのでは? と思いました。 ・質をはかるのはむずかしいけれど、数でなく内容をみたい。 ・設定項目を森の京都関連事業実施数としているのはどうしてか教えてください。観光系の項目ではダメでしょうか。
		② 0名		
③ 1名				
④ 0名				
⑤ 0名				
	10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・国の地方創生推進交付金の補助が終了する。財源の半分を京都府、もう半分を森の京都を構成する市町で負担いただいている。南丹市としてDMO負担金を単費負担するほどの事業効果はない。南丹市単独での取り組みには限界があるので、近隣の市町の連携で効果を出す必要はあり、市町村が単費負担している分程度は価値ある取り組みにしていきたい。それが京都府側の責任だと思っている。森の京都の存在価値や必要性は変わらないが、DMOの事業内容自体が有効かどうかは検証しないとイケない。引き続きこの活動を一緒にやっていたらと思う。 ・既に南丹市内での旧4町の連携の課題もあったが、森の京都での市町村を超えた連携も必要。 	

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

番号	戦略の該当項目 事業名 (担当課)	事前評価	確定	事前評価に付された意見
23	4- (3) -① 間伐材出材奨励事業 (農山村振興課)	① 6名 ② 1名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	○	<ul style="list-style-type: none"> ・木材生産の採算性が厳しい中、搬出費用の軽減を図ることで、森林整備及び間伐材生産が促進され、有効な事業であったと考える。 ・森林の適切な管理は、単に林業の振興にとどまらず、「森の京都」の魅力創出にもつながるものであり、今後も当事業を継続して実施されるよう期待する。 ・地域の材を使いたいと思った時（床を張り替えた時）どこにいけばいいかわからなかったことがあった。「ここに聞けばこんなふうに地域の材が使えるよ」というアナウンスがあれば使う人増えていいのかも。たたみをフローリングにしたいお家とか増えると思うので、うまく需要につなげられれば。 ・設定項目を森の京都関連事業実施数としているのはどうしてか教えてください。林業従事者数など林業にかかわる項目としては、ダメでしょうか。
		10/11会議 当日意見		<ul style="list-style-type: none"> ・林業のあり方もなかなか難しい。府立大学も公共政策学科が府立林業大学校とコラボしながら取り組んでいる。林業にも公共政策が必要。